

第百五十一話 何故、日本に賠償請求するのか、イタリア

日独伊三国同盟を締結し、我が国と共に戦ったイタリアが、日本に宣戦布告をし、戦後敗戦国の汚名を逃れたばかりか、日本に賠償を求めてきた事実をご存知だろうか？国際政治は正に複雑怪奇と云うべきか？その顛末を述べたい。



1 枢軸国としてのイタリアの状況

当時のイタリアは、立憲君主制国家（国王エマヌエレ三世）であり、ファシスト党のムッソリーニは、1924年12月31日、独裁制への移行を宣言して首席宰相及び国務大臣に就任、政府権限を大幅に強化した。更に、1929年3月24日の総選挙で全議席を獲得してイタリアにおける一党独裁が確立された。

第二次世界大戦には日独伊三国同盟（1940年）を結んだことによって枢軸国側として参戦する。参戦後はギリシャ更にはドイツの要請に応じてエジプトに侵攻するも、装備の陳腐化や物資不足が進んでいた王国軍は思うように戦いを進められず、ムッソリーニの威信は大きく低下した。

1943年の連合国によるシチリア上陸作戦（ハスキー作戦）を機に、国王やファシスト党内の和平派が政変を起こし、ムッソリーニは解任・逮捕され、バドリオ政権が誕生した。バドリオ元帥は、独に戦争継続を約束しつつ、連合国と休戦交渉を進めていた。休戦、その後には連合軍の一員として対独戦に参加することを狙っていた。連合軍は飽くまでも無条件降伏を求めていたが、名目上の休戦協定、実質的には無条件降伏となる条文で妥協を図った。然し、国王と政府は決断を躊躇した。伊の優柔不断に業を煮やしたアイゼンハワーが、9月8日、伊の了承なく一方的に無条件降伏を宣言した。1943年9月8日がイタリアの終戦日となったのである。

2 独のイタリア進駐とムッソリーニの救出、内戦へ

ヒトラーは、イタリア北・中部への独軍の進駐を決断、イタリア国王や政府はローマから連合軍占領地域に逃亡した。9月12日、独特殊部隊によりムッソリーニは救出された。9月23日、ムッソリーニを国家元首とするイタリア社会共和国が建国された。

1945年4月、独軍は降伏し、4月25日イタリア社会共和国は事実上政権崩壊した。ムッソリーニも拘束され、射殺され、イタリア社会共和国も4月25日降伏した。

3 バドリオ政権の対独・日宣戦布告と対日賠償請求

バドリオ政権は、1943年10月13日に対独、1945年7月17日に対日宣戦布告をした。戦後、戦勝国として、日本に賠償金を求めてきた。が、日本政府はバドリオ政権を未承認であったことから、その権利を認めないとの立場であった。

横浜正金銀行の債務返還要求と民間人資産問題があった。債務返還4億6345万円の返還、120万ドルの支払いで決着した。ただし日本側はイタリアの請求権を認めず、あくまでもこの支払いは賠償や補償ではなく一括見舞金であるとの立場を崩していない。

4 国連憲章の敵国条項対象外となったイタリア

1946年国王は廃位され、王国は消滅した。イタリアは共和国となり、1955年に国連加盟を果たした。敵国条項が適用される国の名は、国連憲章には書かれていない。定義としては、「第二次世界大戦中にこの憲章の署名国の敵だった国」（第53条2項）

（日本、ドイツ、イタリア、ハンガリー、ルーマニア、フィンランドの七か国を意味する）。しかし、日本とドイツ以外の五カ国は大戦中に枢軸国側から離脱し日本とドイツに宣戦布告したので敵国条項対象外である。

*強かというか、理不尽というか、国家の信義とは何かを考えさせられる。日本には真似の出来ない芸当だ。

（第百五十一話 了）